

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年8月8日
【四半期会計期間】	第138期第2四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）
【会社名】	三菱鉛筆株式会社
【英訳名】	MITSUBISHI PENCIL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 数原 英一郎
【本店の所在の場所】	東京都品川区東大井五丁目23番37号
【電話番号】	東京（3458）6221（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 長谷川 直人
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東大井五丁目23番37号
【電話番号】	東京（3458）6221（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 長谷川 直人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第137期 第2四半期連結 累計期間	第138期 第2四半期連結 累計期間	第137期
会計期間	自平成23年1月1日 至平成23年6月30日	自平成24年1月1日 至平成24年6月30日	自平成23年1月1日 至平成23年12月31日
売上高(百万円)	26,258	26,273	50,955
経常利益(百万円)	3,707	3,552	6,543
四半期(当期)純利益(百万円)	2,498	2,145	4,035
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,397	2,516	3,575
純資産額(百万円)	46,483	48,803	46,702
総資産額(百万円)	65,073	67,148	64,767
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	83.31	73.95	135.94
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	70.4	71.6	71.1
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	3,369	3,582	5,378
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	633	605	2,457
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,688	517	2,574
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	19,013	20,652	18,163

回次	第137期 第2四半期連結 会計期間	第138期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日
1株当たり四半期 純利益金額(円)	34.19	19.74

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 第137期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年6月30日まで）のわが国経済は、東日本大震災からの復興に伴う国内需要が牽引し、個人消費にも持ち直しの動きが見られるなど回復基調がうかがえるものの、欧州財政金融危機や新興国での成長鈍化懸念等から世界経済が減速する中で、歴史的水準での円高定着を背景とした輸出・生産活動の伸び悩み傾向が続き、依然として不透明感が強い状況が続きました。

当社グループが属する筆記具業界でも、個人消費の回復基調を背景に国内需要に持ち直しの兆しが見られたものの、世界経済の減速や円高といった外部要因が響き、全体として力強さに欠けた経営環境で推移いたしました。

このような中、当社グループは、「JETSTREAM」「KURU TOGA」「STYLE-FIT」に代表される高付加価値で高品質な商品群に更なる品質改良や多機能化、カラーバリエーションの充実を積極的に進め、幅広いお客様に、よりご満足いただける魅力的な商品開発に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は262億73百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は32億64百万円（前年同期比9.4%減）、経常利益は35億52百万円（前年同期比4.2%減）、四半期純利益は21億45百万円（前年同期比14.2%減）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

筆記具及び筆記具周辺商品事業は、世界経済の低迷や円高の影響を受けたものの、国内市場での主力商品の販売が堅調に推移し、この結果外部顧客に対する売上高は248億96百万円（前年同期比0.3%増）となりました。一方、その他の事業は、手工芸品事業及び粘着テープ事業が共に伸び悩み、この結果外部顧客に対する売上高は13億76百万円（前年同期比3.7%減）となりました。

財政状態につきましては、当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べて23億80百万円増加し671億48百万円となりました。これは主として受取手形及び売掛金が1億49百万円、有形固定資産が1億42百万円それぞれ減少したものの、現金及び預金が25億40百万円増加したことによります。

負債は、前連結会計年度末に比べて2億79百万円増加し183億44百万円となりました。これは主としてその他流動負債が2億9百万円増加したことによります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて21億1百万円増加し488億3百万円となりました。これは主として利益剰余金が17億41百万円、その他有価証券評価差額金が2億32百万円増加したことによります。

### (2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて24億88百万円増加し206億52百万円となりました。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、主に税金等調整前四半期純利益33億95百万円、減価償却費7億32百万円、一方使用した資金は主に法人税等の支払額12億41百万円であり、この結果35億82百万円と前年同期に比べて2億12百万円の増加となりました。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動に使用した資金は、主に固定資産の取得による支出6億62百万円、一方、得られた資金は定期預金の払戻による収入1億13百万円、この結果6億5百万円と前年同期に比べて28百万円の支出の減少となりました。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動に使用した資金は、主に短期借入金の返済91百万円、配当金の支払額4億3百万円であり、この結果5億17百万円と前年同期に比べて11億71百万円の支出の減少となりました。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。  
なお、当社は「株式会社の支配に関する基本方針」を定めており、その内容の概要は以下の通りであります。

#### 基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えています。そして、当社の企業価値の向上は、お客様が求める最高品質の筆記具を市場に提供すると共に、筆記具事業で培った技術を応用して新規事業を開拓し、その双方を結びつけ一体的な経営を行うことによって実現されるものであると考えています。

当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案がなされた場合、その判断は最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。また、当社株式について大量買付けがなされた場合、それが当社の企業価値並びに株主共同の利益の確保・向上に資するものであれば、これを否定するものではありません。しかしながら、株式の大量買付けの中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付けの内容等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が株主に対して代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との交渉を必要とするもの等、大量買付けの対象となる会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社株式の大量買付けを行う者が、当社グループの財務及び事業の内容を理解するのは勿論のこと、上記の当社の企業価値の源泉を理解した上で、かかる企業価値の源泉を中長期的に確保し、向上させることができなければ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることとなります。当社は、このような当社の企業価値・株主共同の利益を毀損する当社株式の大量買付けを行う者は、当社の財務及び事業の方針を決定する者として不適切であり、このような者による当社株式の大量買付けに対しては、必要かつ相当な対抗措置を講じることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

#### 基本方針の実現に資する取り組み

当社は、基本方針の実現に資する取り組みとして以下の施策を実施しております。

#### イ．中期3ヵ年経営計画のスタート

当社は、平成22年1月より「グループ資源の最適配分による競争力の再強化」を基本方針とする平成24年までの中期3ヵ年経営計画をスタートさせました。その重点方針として「筆記具事業の強化」、「既存オペレーションの効率化」、「新規事業と新規分野開拓の強化」、「学習する組織と人材の育成」の4つを掲げ、企業価値向上に取り組んでおります。

#### ロ．コーポレート・ガバナンスの強化

当社は、透明性の高い公正な経営を実現すべく、取締役の任期を1年とし、かつ社外取締役を選任することにより経営に対する監視機能の強化を図っております。また、監査役につきましては、社外監査役2名を含む4名により監査役会を構成し、取締役の職務執行の監査を行っております。当社は、このように、社外取締役と社外監査役による当社経営に対する監督・監視機能の充実を図り、コーポレート・ガバナンスの一層の強化を図っております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための

#### 取り組み

当社は、平成22年3月26日開催の第135回定時株主総会において、従前の当社株式の大規模買付け行為に関する対応策（買収防衛策）の一部を改定したうえで継続することを株主の皆様にご承認いただきました（以下、改定後の当社株式の大規模買付け行為に関する対応策（買収防衛策）を「本プラン」といいます）。

本プランは、当社株式の大規模買付け行為が行われる場合に、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報や時間を確保するとともに、買収者との交渉の機会を確保すること等により、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させることを目的としております。

本プランは、当社株券等の20%以上を買収しようとする者が現れた際に、買収者に事前の情報提供を求める等、上記の目的を実現するために必要な手続を定めております。買収者は、本プランに係る手続に従い、当社取締役会又は当社株主総会において本プランを発動しない旨が決定された場合に、当該決定時以降に限り当社株券等の大量買付けを行うことができるものとされています。

買収者が本プランに定められた手続に従わない場合や当社株券等の大量買付けが当社の企業価値・株主共同の利益を毀損するおそれがある場合等で、本プラン所定の発動要件を満たす場合には、当社は、買収者等による権利行使は原則として認められないとの行使条件及び当社が買収者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権

を取得できる旨の取得条項が付された新株予約権を、その時点の当社を除く全ての株主に対して新株予約権無償割当ての方法により割り当てます。

当社は、本プランに従った新株予約権の無償割当ての実施、不実施又は取得等の判断については、取締役の恣意的判断を排するため、当社経営陣から独立した社外取締役等のみから構成される独立委員会を設置し、その客観的な判断を経るものとしつつ、取締役会においても慎重な判断を行うものとしております。また、当社取締役会は、これに加えて、本プラン所定の発動要件を満たす場合には、株主総会を開催し、新株予約権の無償割当てその他法令及び当社定款において認められる対抗措置の実施に関する株主の皆様の意思を確認することがあります。

なお、本プランの有効期間は、第135回定時株主総会終結後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとしております。

具体的取り組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社の中期3ヵ年経営計画をはじめとする企業価値向上のための取組みやコーポレート・ガバナンスの強化といった各施策は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに基本方針の実現に資するものです。従って、これらの各施策は、基本方針に沿い、当社の株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

本プランは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させるための枠組みであり、同じく基本方針に沿うものです。また、本プランは経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則を全て充足していること、本プランは、第135回定時株主総会において株主の皆様の承認を得たうえ更新されたものであること、当社の業務執行を行う経営陣から独立した社外取締役等のみから構成される独立委員会が設置されており、本プランの発動に際しては独立委員会による勧告を経ることが必要とされていること、本プランの内容として発動に関する合理的かつ客観的な要件が設定されていること、有効期間が約3年間と定められた上、株主総会又は取締役会によりいつでも廃止できるとされていること、さらに、当社取締役の任期は1年とされていること等により、その公正性・客観性が担保されており、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

#### (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費は1,343百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	136,500,000
計	136,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数 (株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成24年8月8日)	上場金融商品 取引所名又は 登録認可金融 商品取引業協 会名	内容
普通株式	32,143,146	32,143,146	東京証券取引所 (市場第1部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	32,143,146	32,143,146	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	-	32,143,146	-	4,497	-	3,582

(6)【大株主の状況】

平成24年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社横浜銀行	横浜市西区みなとみらい三丁目1番1号	15,057	4.68
三菱鉛筆取引先持株会	東京都品川区東大井五丁目23番37号	14,848	4.61
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	13,600	4.23
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号	13,500	4.19
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	12,668	3.94
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	12,500	3.88
大同生命保険株式会社	大阪市西区江戸堀一丁目2番1号	11,720	3.64
あいおいニッセイ同和損害保険株式 会社	東京都渋谷区恵比寿一丁目28番1号	9,515	2.96
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川二丁目27番2号	9,515	2.96
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	8,997	2.79
計	-	121,921	37.93

(注) 上記のほか、自己株式 19,895百株(6.18%)があります。



(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,989,500	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 1,318,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,796,400	287,964	-
単元未満株式	普通株式 39,246	-	-
発行済株式総数	32,143,146	-	-
総株主の議決権	-	287,964	-

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 三菱鉛筆(株)	東京都品川区東大井五丁目23番 37号	1,989,500	-	1,989,500	6.18
(相互保有株式) 三菱鉛筆群馬県販売(株)	群馬県前橋市問屋町二丁目6番 3号	20,000	-	20,000	0.06
三菱鉛筆東京販売(株)	東京都品川区東大井五丁目22番 5号	564,600	-	564,600	1.75
三菱鉛筆九州販売(株)	福岡県福岡市博多区吉塚二丁目 20番21号	268,400	-	268,400	0.83
株ユニ物流	東京都品川区東大井五丁目23番 37号	465,000	-	465,000	1.44
計	-	3,307,500	-	3,307,500	10.28

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	19,470	22,011
受取手形及び売掛金	2 12,935	2 12,786
たな卸資産	3 10,516	3 10,495
その他	1,863	1,735
貸倒引当金	158	116
流動資産合計	44,627	46,912
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	11,935	11,792
無形固定資産	126	136
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	5,868	6,240
その他	2,210	2,065
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	8,078	8,306
固定資産合計	20,140	20,235
資産合計	64,767	67,148

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 7,488	2 7,485
短期借入金	1,272	1,185
未払法人税等	1,286	1,245
賞与引当金	409	386
返品引当金	42	54
その他	3,572	3,781
流動負債合計	14,073	14,137
固定負債		
長期借入金	16	170
退職給付引当金	2,660	2,656
役員退職慰労引当金	722	678
環境対策引当金	29	29
負ののれん	147	114
その他	416	558
固定負債合計	3,992	4,207
負債合計	18,065	18,344
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,497	4,497
資本剰余金	3,582	3,583
利益剰余金	41,304	43,045
自己株式	3,310	3,310
株主資本合計	46,074	47,816
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,183	1,415
繰延ヘッジ損益	0	1
為替換算調整勘定	1,213	1,145
その他の包括利益累計額合計	30	272
少数株主持分	658	714
純資産合計	46,702	48,803
負債純資産合計	64,767	67,148

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
売上高	26,258	26,273
売上原価	13,839	14,180
売上総利益	12,418	12,093
販売費及び一般管理費	8,816	8,828
営業利益	3,601	3,264
営業外収益		
受取利息	10	12
受取配当金	97	92
受取地代家賃	69	70
負ののれん償却額	32	32
為替差益	-	83
その他	35	80
営業外収益合計	246	372
営業外費用		
支払利息	8	6
持分法による投資損失	18	13
為替差損	42	-
シンジケートローン手数料	30	27
その他	40	36
営業外費用合計	140	84
経常利益	3,707	3,552
特別利益		
固定資産売却益	81	3
貸倒引当金戻入額	11	-
投資有価証券売却益	18	-
連結子会社所有の親会社株式売却益	0	-
特別利益合計	111	3
特別損失		
固定資産除売却損	17	14
減損損失	-	33
投資有価証券売却損	1	-
投資有価証券評価損	1	-
会員権評価損	-	12
役員退職慰労金	25	-
代理店契約解約損	-	100
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	16	-
特別損失合計	61	159
税金等調整前四半期純利益	3,757	3,395
法人税等	1,190	1,190
少数株主損益調整前四半期純利益	2,566	2,205
少数株主利益	68	60
四半期純利益	2,498	2,145

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,566	2,205
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	203	234
繰延ヘッジ損益	3	2
為替換算調整勘定	37	76
持分法適用会社に対する持分相当額	0	2
その他の包括利益合計	169	310
四半期包括利益	2,397	2,516
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,320	2,448
少数株主に係る四半期包括利益	76	68

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,757	3,395
減価償却費	756	732
減損損失	-	33
貸倒引当金の増減額(は減少)	4	43
退職給付引当金の増減額(は減少)	43	5
前払年金費用の増減額(は増加)	162	124
受取利息及び受取配当金	108	105
支払利息	8	6
為替差損益(は益)	48	51
持分法による投資損益(は益)	18	13
投資有価証券売却損益(は益)	17	-
投資有価証券評価損益(は益)	1	-
代理店契約解約損	-	100
売上債権の増減額(は増加)	67	129
たな卸資産の増減額(は増加)	292	54
仕入債務の増減額(は減少)	114	9
未収消費税等の増減額(は増加)	206	161
その他	96	238
小計	4,636	4,775
利息及び配当金の受取額	108	105
利息の支払額	8	6
法人税等の支払額	1,367	1,241
代理店契約解約金の支払額	-	50
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,369	3,582
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
固定資産の取得による支出	562	662
固定資産の売却による収入	154	16
投資有価証券の取得による支出	1	0
投資有価証券の売却による収入	48	-
貸付けによる支出	93	18
貸付金の回収による収入	5	118
定期預金の預入による支出	253	163
定期預金の払戻による収入	25	113
その他	44	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	633	605
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	194	91
長期借入金の返済による支出	1	3
自己株式の取得による支出	1,029	1
自己株式の売却による収入	0	-
少数株主からの払込みによる収入	-	13
配当金の支払額	420	403
少数株主への配当金の支払額	39	25
その他	3	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,688	517
現金及び現金同等物に係る換算差額	35	28
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,082	2,488
現金及び現金同等物の期首残高	17,930	18,163
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,013	20,652

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
税金費用の計算	当社及び一部連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。



【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
1. 受取手形(輸出手形を含む)割引高 193百万円	1. 受取手形(輸出手形を含む)割引高 62百万円
2. 連結会計年度末日満期手形の処理については、当連結会計年度末日は銀行休業日でありましたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。これにより連結会計年度末残高から除かれている連結会計年度末日満期手形は次のとおりであります。	2. 四半期連結会計期間末日満期手形の処理については、当四半期連結会計期間末日は銀行休業日でありましたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。これにより四半期連結会計期間末残高から除かれている四半期連結会計期間末日満期手形は次のとおりであります。
受取手形 121百万円	受取手形 184百万円
支払手形 17	支払手形 29
3. たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。	3. たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。
商品及び製品 4,957百万円	商品及び製品 4,873百万円
仕掛品 2,278	仕掛品 2,230
原材料及び貯蔵品 3,280	原材料及び貯蔵品 3,391
4. 債務保証	4. 債務保証
金融機関からの借入に対する債務保証額	金融機関からの借入に対する債務保証額
三菱鉛筆販売協同組合 350百万円	三菱鉛筆販売協同組合 350百万円
従業員住宅ローン等に対する債務保証額 54	従業員住宅ローン等に対する債務保証額 51
その他 0	その他 0
合計 405	合計 402

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。	. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。
販売促進費 1,359百万円	販売促進費 1,373百万円
給与手当 2,688	給与手当 2,593
退職給付費用 154	退職給付費用 132
賞与引当金繰入額 71	賞与引当金繰入額 160
役員退職慰労引当金繰入額 36	役員退職慰労引当金繰入額 59
研究開発費 1,361	研究開発費 1,343
減価償却費 152	減価償却費 144

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在)	. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成24年6月30日現在)
現金及び預金勘定 19,349百万円	現金及び預金勘定 22,011百万円
預金期間が3ヶ月を超える定期預金 336	預金期間が3ヶ月を超える定期預金 1,359
現金及び現金同等物 19,013	現金及び現金同等物 20,652

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年6月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年3月30日 定時株主総会	普通株式	438	14.00	平成22年12月31日	平成23年3月31日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年7月28日 取締役会	普通株式	337	11.00	平成23年6月30日	平成23年9月7日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月29日 定時株主総会	普通株式	422	14.00	平成23年12月31日	平成24年3月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年7月26日 取締役会	普通株式	376	12.50	平成24年6月30日	平成24年9月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	筆記具及び筆記具 周辺商品事業	その他の事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	24,828	1,429	26,258	-	26,258
セグメント間の内部売上高又は振替高	6	24	31	31	-
計	24,834	1,454	26,289	31	26,258
セグメント利益	3,547	40	3,587	13	3,601

(注)1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	筆記具及び筆記具 周辺商品事業	その他の事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	24,896	1,376	26,273	-	26,273
セグメント間の内部売上高又は振替高	5	24	30	30	-
計	24,902	1,401	26,303	30	26,273
セグメント利益	3,221	29	3,251	13	3,264

(注)1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

筆記具及び筆記具周辺商品事業セグメントにおいて、売却が決定した資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(33百万円)として特別損失に計上しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	83.31円	73.95円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,498	2,145
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,498	2,145
普通株式の期中平均株式数(株)	29,993,855	29,006,799

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

当社は平成24年7月26日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり議決しております。

配当金の総額 376百万円  
1株当たりの配当額 12円50銭  
基準日 平成24年6月30日  
効力発生日 平成24年9月5日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月8日

三菱鉛筆株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 長崎 康行 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 植草 寛 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱鉛筆株式会社の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三菱鉛筆株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。